



Smile スマイルとらみ No.1

Profile
 昭和60年11月12日生まれ(18歳)
 勤務先 株アスマ
 趣味 買い物、ドライブ、読書
 血液型 B型

たけうちりえこさん(大川)
竹内理恵子

- ・今の仕事のやりがいは・・・ 仕事をしはじめてからまだ1カ月と少し。まだまだ分からないことが多く、仕事を覚えることで精一杯ですね。でも、責任のある仕事でやり終えた後の達成感は何ともいえないです。
- ・夢は・・・ いろいろとあるんですが、世界一周をして見たことのない世界にふれ、見識を広めたいですね。
- ・理想の人は・・・ しっかりしていなさそうで、しっかりしている人。また、誠実でいろいろなことを聞いてくれる人がいいですね。
- ・好きな言葉は・・・ 自分を表すところの言葉になりますが、『Moody(ムーディー、気分屋)』です。いつも自分に『しっかりしろ』と言い聞かせています(笑)。
- ・東御市に望むことは・・・ もっと若者が集まれる、過ごせる場所が欲しいですね。駅前の活性化、道の拡大・歩道の整備などいろいろありますが、活気がある東御市になって市内外から「いい市だね」と言われるような市になって欲しいです。

学校だより

東御市になって

※今月は田中小学校と北御牧中学校の皆さんに「東御市」になって思うことを作文していただきました。

田中小学校

六年一組
渡辺 美沙(田中)

私は、みんなが笑っていられるような東御市になってほしいです。私たちが笑っている、ちがう所から来た人たちにも優しくできると思うからです。そのために、まず私ができることは、「あいさつ」をすることです。どうして笑顔とあいさつが関係しているかというと、私は、まちな人にあいさつして

もらうとうれしくて、すつごく笑いたくなるからです。そんなあいさつが広がるといいと思います。

六年二組
荒井 順子(常田)

私たちの住んでいた旧東部町は、長野県の市で16番目に人口が多い東御市になりました。東御市になって良かったと思うことは、たくさんの人たちとの交流ができるようになったことです。例えば、市のスポーツ少年



渡辺さん(左)、荒井さん(右)

団の仲間には北御牧の人たちがたくさんいます。今までの町・村でのイベントや内容、参加者も増えると思います。そして、市のいろいろな場所や、人との出会いを増やし、学校や地域の情報交換などをして、友達をたくさん作っていききたいです。

北御牧中学校

三年一組
白倉 貢(山崎)

僕が東御市になって望むことは、東部中学校との交流です。学校としての交流はまだできないと思いますが、小さな事から始めていけばいいと思います。まず考えられることは、部活動を通しての交流です。例えば、運動部だったら練習試合や合同練習です。文化部なら、合同練習や練習の成果を発表しあう場を持つのもいいと思います。実際に吹奏楽部は「Tom・Meコンサート」を通して交流しました。東部中の迫力に圧倒され、北中ももっと上手になりたいと感じたようです。

また、部活動だけではなく、生徒会などでもできると思います。僕は東部中学校の生徒会の良い面をどんどん北御牧中学校にも取り入れていきたいと考えています。そのためお互いの文化祭を見学し合うのもいいと思います。北中の生徒会の特徴は、意見箱を設けて、全校の生徒の意見を聞き、各委員会ごとその意見を検討する機会を設けていることです。村ではなく、市として新しく変わり、今までは違う面がたくさんで、思いますが、東部中学校と北御牧中学校がお互いに良い関係でいられるように、様々な行事や交流をしていきたいと思います。それぞれの中学校のいい面を吸収し、より良い学校にしていきたいと思います。

心の眼

(1) 人権同和教育指導員 猪股 惇



この4月からお世話になります。人権同和教育指導員2名は、町田勝と猪股惇です。よろしく願います。2人で交互にこの欄を担当します。表題の「心の眼」は、「心」からとりました。「心」は、「外見にごまかさず」に物事を見抜く心の動きのことをいいます。人権問題を考えるうえでも重要なことです。人間は自己矛盾を抱えた動物だといわれています。今回「人権意識」について、自問自答し、その人権意識と自分の行動を、心の中のスクリーンに映し出してみてくださいます。私自身もそうですが、状況に応じたさまざまな対応の姿や、建て前と本音の使い分けの姿が見えてくると思います。人権問題については、観念としては理解しているつもりでも、状況によってとる行動

が変わってしまう人が多くいます。しかし、それによって「自分」という人間がときどきは厳しい評価にさらされるといえるのも事実です。何年前かに韓国の青年が、駅のホームから転落した人を助けようと、ホームから線路へ飛びおちたところ、電車にひかれて亡くなったという痛ましい事件がありました。自分の命をかけて他者の命を助けようとした事例ですが、この青年には、どんな場合にも他者を見捨てないという人権感覚が、小さい頃から育てられていたのでしょう。それがとっさの時の行動に凝縮されたものでしょう。しかし、この青年の信念、生きざま(死にざま)が教えているものもさまざまです。人権問題については、自己矛盾の少ない確かな人権意識を一人ひとりが築いていきたいものです。

仲かいな仲間たち

「とふみ野」



「ゆかいな仲間たち」を募集しています(スポーツ・生涯学習・サークルなど)。自薦他薦は問いません。是非私たちも載せてほしい皆さんの応募お待ちしております。

「とふみ野」は5月11日にできたばかりの仲間たち。昨年から短歌の会を作るうと内輪のなかで話が出始め、ようやく発会することができました。初めての方、経験のある方合わせて10名の皆さんがその仲間です。発起人でもあり、講師でもある関義豊さん(大石)は、「短歌は作品の中で、自分の気持ちや自分の生活が表現されます。皆さんがこの地に住み感じていることを恥ずかしながら、自分の気持ちをさらけ出して歌にし、皆で楽しく遊んでゆきたいと思います。市の中央公民館に行かなくても、地元の公民館を使い生涯学習ができます。」と話します。「とふみ野」は毎月第3月曜日に集まり、作品発表と出席者により批評を行います。初会議では、短歌の勉強をし、和気あいあいと話合っていました。

紹介コーナー① 北御牧中央保育園



中央保育園は、旧北御牧村の大日向にあり、黄色の屋根が目印の園舎です。

定員は100名ですが、10名の園児が広い範囲から通ってきています(5月1日現在)。年々少子化傾向により3歳以上児は少ないのですが、未満児の入園が増えていきます。園の特徴は、広い園庭をフル活動して、のびのびと遊ぶ「うまのり」は、4歳児よりそれぞれの家庭でその子にあった竹馬を作り乗って遊びますが、運動会の竹馬パレードは、見事なものです。また、夏野菜などの畑作りなどを通して食への関心をもたせたり、中学生や高校生との交流、デイサービス利用のお年寄りとの交流を通して地域に根ざした保育を実施してきております。昨年度より保育キーパーのおじいちゃん先生が入り、家庭的な保育に近づけよう、また保育園は楽しい場所と思えるような環境づくりに心がけています。そして、集団生活を通していろいろなきまりやルールを覚えてほしいと願っています。